■　地盤・地下水研究に関する日韓共同シンポジウムの開催報告

地質や地下水などの地下環境を調査・評価するための技術開発は、農工研のコアとなる研究の一つです。このシンポジウムでは、農工研が調査や解析に深く関与した世界有数の地下ダム現場を研究交流の場とするため、沖縄県で開催（11 月 1～4 日）しました。

【参加機関および参加者】

農研機構 農村工学研究所（8）
独立行政法人土木研究所（2）、 寒地土木研究所（7）
韓国・釜慶大学 地質環境研究所（9）、釜山大学（1）
千葉大学（1）、愛媛大学（3）、民間研究所からの研究者（5）　計 36 名

【シンポジウムの内容】

・11 月 1 日（月）　研究発表会

物理探査やシミュレーション、トレーサー法など地下環境の評価・調査手法に関する最新の研究成果について発表および討論を行いました。

・11 月 2～4 日（火～木）現地検討会

沖縄県には、世界でも有数の大規模地下ダムがあり、そのうち、本邦初の本格的な塩水進入阻止型となる米須地下ダム（沖縄県糸満市）と、止水壁の高さが 50m を越える施工区間があるなど技術的な難易度の高い伊江地下ダム（沖縄県伊江島）を視察し、調査設計や施工の方法について技術情報を交換しました。

韓国には小規模の地下ダムしかなく、大規模な施工現場を見るのは初めてということで、韓国の研究者は施工説明者に向かって熱心に質問していました。

＜一口メモ＞

沖縄は昔から水不足に悩まされてきた歴史があり、「雨水は醤油を使うように大切にしなさい」ということわざがあります。沖縄の農業は地下ダム建設で大きく発展しました。

シンポジウムの参加者

伊江地下ダムの建設現場